

令和6年7月23日（火）、愛知県豊橋市

令和6年7月24日（水）、愛知県高浜市・愛知県半田市

（1）愛知県豊橋市「民間プール等活用モデル事業について」

川西市は令和6年度より清和台中学校区（清和台小学校と清和台南小学校と養護学校）で民間プールの活用を開始しました。プールの老朽化において財政負担が増大することと設備・施設の整備不良による事故の可能性も考えられます。何よりも民間プールでは専門の指導者から学ぶことができます。そのようなことを踏まえて、先進的に取り入れられている豊橋市へ視察に行きました。

Q1：民間プール等活用モデル事業の実施理由について

A1：学校プールの老朽化が進む中で、従前より財政当局から学校プールのあり方について、教育委員会としての考え方を求められていたことに加え、平成29年度の市議会にて、今後の学校プールのあり方について質疑があったこと、また、外部人材を活用した質の高い授業づくりが求められていたことから、教育委員会が主体となって、民間プール施設等を活用した水泳授業の実施を検討した。

Q2：民間プール活用の今後の方向性について

A2：今後、民間プール施設を活用する学校を、現在の20校から50校程度まで拡大したいと考えている。課題としては、民間プール施設とのスケジュール調整及びバスの確保がある。解決策として、水泳授業の午後実施や11月以降の実施等を検討しているが、午後実施については、一般利用者の割合が増えるため、民間プール施設との丁寧な調整が必要であること、11月以降の実施については、寒い時期であるため行き帰りの児童の体調管理が課題となっている。

Q3：財政面での効果について

A3：当市では、1校あたりの学校プールの年間コストを約5,200千円（耐用年数65年）としているが、民間プール施設を活用した場合の水泳授業の年間コストが約4,280千円のため、1校あたり約920千円、20校で年間約18,400千円の経費削減につながっている。

Q4：民間プールまでの交通手段の考え方について

A4：民間プール施設まで1km圏内の学校は徒歩、1km以上の学校はバスで移動している。昨年度、民間プール施設を利用した20の小学校のうち、徒歩移動の学校は4校、バス移動の学校が15校、徒歩移動とバス移動の併用が1校。併用した学校は、民間プール施設まで1km圏内にあるが、道が狭いといった事情もあり、低学年と特別支援学級の児童がバスを利用している。

Q5：学校プールの跡地活用について

A5：学校ごとにプールの設置場所が異なるため、地域の意見を踏まえて検討を進めているところで、地域からは、校区市民館等の駐車場にしてほしいという声が多くある。

説明と質疑応答

◎モデル事業実施により期待される効果

- ①民間ノウハウの導入により、教育効果が高まる。
- ②施設維持費等の削減が出来る。
- ③屋内施設利用で、天候に左右されず、良い環境の中で授業が実施出来る。

◎水泳授業の内容

①基本的な水泳授業の立案及び進行は教員が行う。インストラクターは教員の指示のもと、水中での補佐、模範演技、全体へのアドバイス等を行う。

②1クラスにつき1名のインストラクターを配置。

③基本的に午前中を前半と後半に分け、前半2クラス、後半2クラスで行う。

※一部、大規模施設では、前後半4クラスずつで実施。

④水泳授業は1クラスあたり、年4回行う。

⑤1回の授業時間は、準備時間等を含め概ね90分間（準備30分、プール30分、休憩5分、プール30分）を基本とする。

3. これまでの実施状況

年度	学校数	クラス数	実施施設数	備考
平成30年度	1	4	1	
令和元年度	2	12	2	
令和2年度	9	68	9	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
令和3年度	12	159	10	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
令和4年度	19	256	11	
令和5年度 (予算)	20	327	10	

◎令和5年度の取り組み内容

(1) アンケート調査の実施

実施対象：

令和5年度に民間プール施設等で水泳授業を実施した学年・学級の児童、保護者、教員

<児童アンケートの結果>

- ・民間プール施設等を使った水泳授業について82%の児童が「とてもよい」、または「よい」と答えている。
- ・「今年の水泳授業が始まった時に比べて、自分が泳げるようになった」と感じている児童が69%いる。
- ・81%の児童がインストラクターの先生の教え方を「とてもよかった」または「よかった」と答えている。

・民間プールを使ってよかったこと、との設問に対して、多かった回答は

- ①プールがきれい
- ②インストラクターがわかりやすく教えてくれた
- ③たくさん泳ぐことができる

よくなかったこと、に対する回答は

- ①特にない、が、最も多かった

<保護者アンケートの結果>

- ・民間プール施設等での水泳授業について、88%の保護者が「子どもが楽しく授業を受けていた」と感じている。
- ・インストラクターによる専門的な指導を取り入れることについて、93%の保護者が、教育効果が高まると考えている。

・民間プールを施設での水泳授業について期待することについては

- ①子どもの泳力向上

改善して欲しいことは

- ①回数を増やして欲しい がそれぞれ、最も多かった

<教員アンケートの結果>

- ・91%の教員が、民間プール施設等での水泳授業には、教育的効果が「とてもある」または「ある」と答えている。
- ・87%の教員が、民間プール施設等で水泳授業を行った方がよいと考えている。
- ・民間プール施設等の方がよい理由としては

①天候に左右されない

②プール当番などの維持管理がない

学校プールの方がよい理由としては

①移動時間がなく、授業が削られない、が最も多かった

(2) この「モデル事業」の収穫

①事業が好意的に受け入れられた

アンケート結果から、本事業について、児童、保護者、教員の多くが好意的に捉えており、教育的効果が高いとしている。

②泳力向上が見られた（令和4年度以前の意見も含む）

学校から「5年生の9割近くが25mを泳げるようになった」、「顔を水につけられなかった3年生が、4回の授業で15m泳げるようになった」との声が届いた。

保護者アンケートにも、「顔に水がかかるのが怖かった我が子が、たった4回で顔つけ、顔つけしながらのバタ足までできるようになった」など、好意的な記述が多く見られた。

③事業者側の理解と協力が得られた

民間プール施設等を運営する事業者及びバス会社の協力を得て、初めて成り立つ事業であることを共有できた。

事業を民間と行政が一体となって進めていくことへの確信が深まった。

学校と施設が事前に綿密な打合せを行ったことで、指導内容や役割分担等が明確になり、効果的な水泳授業を進めることが出来た。

利用日数・時間について、当初計画より多くを本事業にあててくれる施設が増えた。

予定の変更について、民間プール施設等を運営する事業者及びバス会社ともに柔軟に対応してくれたため、順調に実施することができた。

(3) 実施して見えたこと、対応策

①実施回数について

4回では少ないと感じている保護者が一定数いる。

→回数は4回だが、充実した内容が確実に担保されていることを周知していく。

②移動について

体力面や天候面（暑さ）で、徒歩移動に対して心配の声がある。

→特に低学年や特別支援学級については、実施時期を調整する等工夫が必要。

実施校が増えた時のバスの確保についての課題

→バスの有効活用を検討する必要がある。

(4) 実施校拡大に向けた今後の方向性

実施校拡大に向け、施設の受け入れ状況やバスの確保が可能かどうかを踏まえ、以下の点について重点的に検討を進める。

①午後の時間帯における水泳授業の実施を検討

②自校プールでの水泳授業の継続も検討

民間プールの受け入れキャパシティもあり、民間が受け入れ不可となったらどうするかも懸念されるため。

③学校プール施設の跡地利用について、学校や地域にとって有効な活用方法を検討

(その他の質疑)

Q：民間プール施設等の休業日の対応は？

A：営業日に実施しているが、休業日に受け入れ可能な施設も、一部ある。

Q：跡地活用については？

A：市の施設マネジメント部門等とも話をしつつ、地域と協働で取り組んでいく。

Q：総合教育会議が、最近、続けて実施されているが（川西市では年4回程度）、年間の実施回数等が多いのか？

A：他地域に比べて特に多い訳ではないと思うが、最近は、市長日程等もあり、続けて実施された。

Q：約50校（小学校）の、ほぼ全校実施（新築間もない学校等を除く）で実施するタイムスケジュールは？

A：再来年度内には実施したいと考えている。豊橋市は、築後40～50年の学校が多い。施設が古いので、対応は急務。

Q：バスの契約社数、料金設定等は？

A：2社と契約、料金設定は運行距離、拘束時間等、一般的な旅客運送規定による。教育関係等であるからの特段の優遇規定等はない。

「調査から感じたこと」

豊橋市でも学校施設は築後、約40～50年が経過しており、施設の老朽化対策は喫緊の課題。

特にプール設備は、改修、更新に多額の財源を必要とするが、少子化が進み利用者減少が予測されること、夏が酷暑となり、暑さ指数31以上（運動は原則禁止）が連日となる等、稼働日数が現時点でも年々、減少していること等を鑑み、水泳授業のあり方検討をはじめ、対応が急務となっている。

この課題は、全国の基礎自治体で同様に抱えているが、まだ検討段階の自治体が多い中で、先取の取り組みを果敢に進めておられるのが豊橋市。

関係各機関との綿密な協議と連携、逐次、丁寧に調整の場を設ける等、現場の努力と、関係者間の協働があればこそその事業だと実感し、これらの成果が積み重なって、困難な課題にともに向き合うことができるのだとあらためて感じた。

川西でも本年度から、一部でモデル事業が開始されており、課題の整理、事業の方向性、有効性の確認等で有益な調査となった。

川西市は部活動の社会移行について、令和8年度完全移行を示していることもあり、グラウンドの夜間活用の必要性は高まってくると考えている。また、夏場の11時から15時は非常に熱く、グラウンドでの競技がしにくい状況であり、高浜市・半田市の夜間のグラウンド活用について取り組みを伺う。

- (2) 愛知県高浜市「五反田グラウンドの夜間照明について」
 ・高浜市立グラウンドの夜間照明の状況について

→市立グラウンドは郊外に設置されており、多くに夜間照明がついている。

名称	供用開始	利用用途等	利用時間	照明使用料
碧海グラウンド (14,422 m ²) 【H28 LED化】	昭和 50 年 (1975 年)	野球やソフトボールを 主な用途としている。 スポーツ以外のイベント でも使用。	グラウンド (6 時～22 時) 照明設備	4,060 円/ 時
流作グラウンド (12,000 m ²) 【LED 化計画なし】	昭和 56 年 (1981 年)	野球、ソフトボール、 サッカーを主な用途と している。	(17 時～22 時)	4,400 円/ 時
五反田グラウンド (5,958 m ²) 【R5 LED化】	昭和 58 年 (1983 年)	サッカーを主な用途と しており、隣接する五 反田第 2 グラウンドでイ ベント開催時の駐車場 として使用されること もある。		2,200 円/ 時
五反田第 2 グラン ド (8,601 m ²) 【R6 LED化 (11 月頃予定)】	平成 4 年 (1992 年)	野球やソフトボールを 主な用途としている。 農業まつりや消防出初 式等のイベントでも使 用。		2,340 円/ 時
高浜芳川緑地多目 的広場①、② (①13,095 m ²) (② 3,426 m ²) 【照明設備なし】	①平成 29 年 (2017 年) ②平成 30 年	少年サッカーや少年野 球の練習場所として使 用。 占有利用がない場合 には一般開放されてい る。	広場 (6 時～17 時 または 18 時)	—

	(2018年)			
--	---------	--	--	--

- ・夜間照明設置の経緯について伺いたい。

→グラウンド設置当初から夜間照明がついている。古いものは約50年前に設置されているので詳細は不明。

- ・使用料の算定根拠について

→グラウンド使用料は土地の不動産価格をベースにしている。根本的な料金の見直しは行なっておらず、照明等電気使用料の見直しについての方針はあるが、コロナ禍や電気代高騰もあり一旦見送っている。

- ・LED化したことによる住民の反応はどうか。

→水銀灯からLED化にすることにより照度は改善されており、特に子どもから喜びの声をいただいている。

- ・地域型総合スポーツクラブをうまく活用されており、スポーツを活用したまちづくりのイメージがあるが、どのように取り組まれているのか。

→総合型地域スポーツクラブについては、高浜市は住民主体で設立した経緯があった。従前より民間委託を活用しており、総合型地域スポーツクラブについても指定管理で民間委託をしている。

- ・学校施設を開放しているが、学校もよく活用されているのか。

→体育館は平日の夜と土日がよく利用されている。また、平成14年に設置した翼小学校はグラウンドに夜間照明を設置している。これは学校開放を意識して当初から設置しており、夜間によく活用されている。大規模なグラウンドより、学校のグラウンドサイズの方が市民にとっては活用しやすい様子。翼小学校はサッカーと陸上、ソフトボールの練習で週2～3回利用されている。運動場自体は無償であるが、夜間照明は1,460円/時としている。

- ・スポーツくじの助成事業について

→LED化工事については3000万円の2/3が助成申請上限となっている。2000万円で申請し、交付決定で1600万円となった。

(3) 愛知県半田市「市立中学校グラウンドへの夜間照明設置について」

・夜間照明設置の経緯について

→地域から夜間に屋外でスポーツができる環境整備の要望があった。中学校5地区で1施設の整備を進める方針の中、5つある中学校に夜間照明を設置することとなった。乙川中学校改築外構・運動場整備電気工事の費用は1億4586万円。夜間照明6基設置のほか、放送設備の整備や埋設のケーブル撤去費用等も含む。

・夜間照明の利用状況について

→電気使用量については、学校設備全体でカウントしているため、夜間照明だけの使用量は把握していない。

夜間の利用者については、学校は一般の市民スポーツ団体が利用することが多い。また、照明施設の苦情は受けていない。

・学校開放や夜間照明について地域の声があがってきたのはいつ頃からか。

→昭和60年代と認識している。学校開放や夜間照明設置についての苦情はゼロではないと思うが、地域からの要望でもあり、苦情は市には届いていない。

・半田市の総合型地域スポーツクラブはどのような体制か。

→半田市は全国的にも先駆けて総合型地域スポーツクラブを展開し、5中学校区にそれぞれクラブがある。また、中学校区内の小学校の体育館等も総合型地域スポーツクラブが管理している。

体育館等も学校開放規則で定めており、一元管理として総合型地域スポーツクラブに委託をしている。地域からすると夜間照明あり体育館あり、土日のグラウンドも活用できているという受け止めだと捉えている。半田市は今年9月から土日休日の部活動は廃止の方向。受け手として総合型地域スポーツクラブに登録している団体が担うことで調整している。

・中学校区で総合型地域スポーツクラブをもっており先進的であり上手く市民団体とスポーツ環境を整えられている。どのように取り組まれているのか。

→各地区の総合型地域スポーツクラブのうち、現在2つは法人化している。市の交付金としては5つで1000万円強ぐらいの補助金。

部活動の社会移行について、半田市では部活動改革と呼んでいるが、スポーツ難民、文化難民を中学生から出さないという方針のもと、塾、英会話など受益者負担もあるので、部活動も同じスタンスである。

事前に保護者、生徒に対してアンケートを取り、スポーツ協会とも連携をとりながら進めている。